<実践報告>

信州大学/ユタ大学 夏期英語研修プログラム

渡部かなえ 信州大学教育学部スポーツ科学教育講座

The Short-Term English Program in Summer Between Shinshu University and University of Utah

WATANABE Kanae: Department of Physical Education and Sports, Faculty of Education, Shinshu University

研究の目的	将来、教員や地域の指導者となることを目指す学生に適した短期英語研修の
	内容と実施方法の検討に役立つ実践資料の提供.
キーワード	英語 短期研修 共有
実践の目的	単なる語学研修ではなく、相互理解に一番大切なこと、すなわち相手の人格、
	お互いの国の自然や文化や歴史を尊重し理解すること,経験や感動を仲間と
	共有し仲間に伝えることを学ぶ. そのためのツールとしての英語のコミュニ
	ケーション・スキル向上をはかる.
	Mr. Randall S. David(デイヴィッド ランドール先生)
実践者名	アメリカ, ユタ大学語学教育研究所(ELI) 専任講師
	(著者:現地での指導補助,事前ガイダンス,事後リフレクション)
対象者	信州大学教育学部学生(経済学部と清泉女学院大学の学生も参加)
実施期間	2003年9月8日~2003年9月26日(出国・帰国に要した日程は除く)
	全ての学習ユニットで Study → Practice → Reflection のステップを踏み, 講義
実践研究の	と実践的体験学習を密接に関連付けて進めた。またコミュニケーションのパ
方法と経過	ートナーを,日本語を学ぶ大学生→日本に興味を持つ市民→小学生と進める
	段階的学習によって、スキル向上を確実なものとした。また「共有」を全て
	のステップで実現した.
実践から 得られた 知見・提言	講義と実践(体験学習)を有機的に結びつけるスパイラルなプログラム構成
	にすることで相乗効果が得られる. またインターネット上に講師と受講生の
	インタラクティブなコミュニケーション空間を設けることで、限られた期間
	でも、一方通行ではない学習の機会を確保できる。さらに経験や感動、知識
	を仲間と共有することによって、学びの定着や共有の過程での新たな創造や
	発見ができ、一層効果的な学習体験となる.

1. はじめに

教育の世界でも国際化が著しく、共通のコミュニケーション・ツールとして使われている英語を学ぶことや英語を通しての異文化理解・国際理解への要望が高くなってきている。国内にいても英語学習の機会や手段はたくさんあるが、「生の英語」に触れ「生の体験」をすることの効果に着目して、大学、地方自治体、財団、民間の留学斡旋業者など様々な団体が実施する語学研修に参加する学生が増えてきている。研修の成果は様々であり、期間や経費の割には期待していた程の効果が得られないこともあれば、夏季休暇などを利用した短期の研修でも大きな成果が得られることもある。本稿の目的は、筆者が引率教員として参加した2003年9月にアメリカ合衆国ツルト・レイク市にあるユタ大学 ELI(English Language Institute)専任講師によって信州大学教育学部生を中心とした参加者に対して行われ、全員が大きな感動と満足そして多大な成果を得ることができた3週間の英語研修プログラムの紹介を通して、教員や地域の指導者となることを目指す学生に適した短期英語研修を検討する上で役立つ実践的な資料を提供することである。さらに、著者が(実践者の Randall 先生の許可を得て)このプログラムを学習ユニットに分類してテーマをつけ、めあてや達成目標を再定義し、解説を加えることにより、第三者による再現および再評価を可能にすることも目的とした。

*注:信州大学はアメリカ合衆国ユタ州立 大学と交流協定を締結し,1998年より教育学部主催の3週間の短期英語 研修が夏季休暇を利用して実施されている.

【写真: 夜, ドミトリーのミーティング・ ルームで他国からの留学生と交流】



2. 実践記録

第1週 (2003年9月8日~14日)

>14 =				
9月8日(月)	1.	オリエンテーションとイントロダクション.		
		コミュニケーション、文化交流にとって大切なこと		
テーマ	2.	ELI(English Language Institute)の事務手続き.		
人との出会いと	3.	Randall 先生引率によるキャンパス・ツアー.		
文化理解(1)	4.	学生証の取得(学生課にて自分達で発行手続き)		
	5.	明日の Japan/US イベントを一緒にやる他大学(早稲田大学)の短期研		
めあて		修生(日本人)と顔合わせ.		
出会いの時の基				
本的な技術(会	今	日のレッスンの達成目標		
話,態度)の習得	1.	このコース・プログラムのコンセプト(単なる語学研修ではなく、文		

と文化の相互理 解について学 ぶ。 化交流と経験の共有、仲間作り)を理解する. コンピューター・センター(日本語利用可)を利用して E-mail の送受信ができるようになる.

2. 明日の活動(Japan/US event)について学生同士で話し合う.

Big "C" and
Little "C"
culture

宿題:自分の周りで、自国の文化との類似点と相違点を1つ見つける. それは Big "C" か Little "C"か(表面的な差異か背景に文化的な理由があるのか). どちらの方が分かりやすいか.

9月9日(火)

テーマ 人との出会い と文化理解(2)

1. 自己紹介の仕方と初めて会う人とのコミュニケーションの取り方についての講義と演習.

2. グループに分かれて、今日の午後のイベント(Japan/US event) についての相談と準備. 折り紙セクション、習字セクション, 着物・日本のおもちゃ・駄菓子セクションに分かれて展示説明.

めあて

出会いの時の 基本的な技術 (会話,態度) の習得と文化 の相互理解に ついて学ぶ.

Big "C" and Little "C" culture

今日のレッスンの達成目標

- 1. ELI の PC・ラボ (英語のみ) の使用説明を受け, Big "C" と Little "C" に関するメッセージを Writing Center (home.utah.edu/~rsd7)に送信する. (学生が ELI の担当教員に E-mail メッセージを投函し, 教員が返信してくれる. 全メッセージと返答は掲示板形式でクラスの全受講学生が閲覧でき,情報を共有できる)
- 2. Japan/US イベントで、来客(ユタの日本語クラスの学生.レベルに差はあるが、全員ある程度の日本語が話せる)と積極的に交流し、相互理解を目指す. Randall 先生作の人当てクイズ(全40間)の答えを、各自が来客に質問して埋めていく. 飲み物とピザを Randall 先生が手配して下さった(ホスピタリティ: 歓待すること、についても学ぶ).

宿題: 今日のイベントの経験を生かして,明日のユタ・フェアでの 展示説明の準備を行っておく.

9月10日(水)

テーマ 交通機関

めあて SLC(Salt Lake City)の中およ び周辺地域に 公共交通して かれるように なる.

- 1. 午前中: ソルトレイクシティ(以下 SLC と略記)とその周辺の公共交通機関について. バス, 路面電車の路線図とウェブ・サイトの時刻表の活用法.
- 2. ユタ・フェア(ダウンタウンにあるフェア会場. バスで行く) 3:30-4:00: 開場準備. 4:00-6:00: フェアの見学(Randall 先生が 作ったユタ・フェア・クイズ全 10 問の答えをフェア開場で探す). 6:00-8:00:ブースで日本文化の紹介.

今日のレッスンの達成目標と宿題

- 1. SLC で自分が行きたい場所(レストラン,映画館等)をリンクサイトで見つける. 路線図と時刻表を使って行き方を調べる.
- 2. 週末に友人と一緒に実際にそこに行く. (宿題)

注:ユタ・フェア(Utah State Fair)

9月4日~14日に渡って開催される大規模なフェステイバル. 全ユタ州から市民が集まり、様々な展示や催し、エンターテイメントがある. Randall 先生が今日の夕方 3:30 から 8:00 まで展示場の一角にブースを設けるスペースを借りてくれていて、そこで Japan Culture の展示と実演を行った. 大変好評であった.

9月11日(木)

テーマ レクリエーション

めあて

一般的なアメ リカのレクリ エーションや 趣味について 学ぶ.

アメリカンフ ットボールに ついて基本的 なことを理解 する.

ユタの歴史に ついての基礎 的な知識を得 る.

1. スポーツ、レジャー、レクリエーションについて講義・演習、

- 2. アメリカンフットボールの基本的なルールの説明(講義). 中庭でタッチフットボールのゲームを実際にやって, ルールを実践的に覚え, 楽しさを実体験する.
- 3. ユタの歴史の概観.明日の市内でのモルモン教関連施設見学に備えて、ユタの歴史のレビュー(講義).
- 4. ユタ大学の日本語クラス(今日の講義テーマは「旅行」)に TA(ティーチング・アシスタント)として参加し、受講生に日本 語で、日本旅行のことや地図の見方などについてアドバイスし ながら交歓する.
- 趣味について 5. ユタ大 vs UCLA のアメフトの試合観戦(学内に公式フットボー 学ぶ. ル・スタジアムがある)

ットボールに「今日のレッスンの達成目標

- 1. 日米の文化の相互理解を、レクリエーションや旅行といったエンターテイメントを通して実践する.
- 2. アメリカは各地がそれぞれ固有の歴史と、それに基づく特色を持っている. その一例として、ユタの歴史的背景を理解する.

宿題:明日,末日イエス・キリスト教会(モルモン教)の歴史博物館 またはテンプル・スクエアで1つ質問が出来るよう考えてく る.(施設に行く前に Randall 先生に質問を見ていただく)

9月12日(金)

テーマ ユタの歴史(宗 教史)

めあて

ユタの(宗教の)歴史について基本的なことを学ぶ.

1. 午前中: Church History Museum でガイド付きの見学: テンプル・スクエアでガイド付きの見学ツアー.

2. レストランやショッピングでの基本的なマナーと常識.

今日のレッスンの達成目標

- 1. ダウンタウンに行く路面電車の中で、宿題の Church History Museum とテンプル・スクエアでする質問を Randall 先生に添削して貰う。現地で実際に質問し、ガイドさんに答えて貰う。
- 3. 昼食(Randall 先生と一緒に全員で): 大勢で食事に行った場合の注文の仕方,料金の払い方,チップの計算方法と渡し方を教わる. その後,自分達だけで SLC 探索.

9月13日(土)

宿題(出題:9月9日・火):

9月14日(日)

「自分達で SLC の行きたいところを見つけて, 公共交通機関での行き方を調べ, 実際に行ってくる」をこの週末にやる. 翌週の月曜日のレッスンで経験したことを報告する. (アドバイス例:映画, シ

(ELIのレッス

第2週(9月15日~22日)

9月15日(月)

テーマ ユタの教育と 歴史

- 1. 教育:日米の教育事情の共通点と相違点について,正しい理解と認識をもつ.
- 2. ユタの歴史(見学)

今日のレッスンの達成目標

- 1. Writing Center に新たにみつけた Big "C" と Little "C" に関するメッセージを送信する. 先週の送信に対する Randall 先生からの返信コメントを読む. (週3回:3メッセージ送信する)
- 2. アメリカと日本の学校教育の相違点は何か,をデイスカッションする. 小学校低学年時はアメリカの小学校に,高学年時は日本の学校に通ったアメリカ人中学生(Randall 先生のお嬢さん:インタビュー時 14 歳)への質疑応答を通して,子ども(教育を受ける側)から見た日米の教育の相違点を聞く.
- 3. 2 グループに分かれる. 明日の小学校での授業の概要を話し合う. (前半グループ:高学年,後半グループ:低学年)
- 3. Historic Village (This Is The Place Heritage Park)に大学のバンで 行き, ユタの入植時代の歴史を学ぶ. (現地ガイドによる解説 付き.)当時の生活や学校での授業風景の再現. フォークダンスの講習も受けた.

宿題:明日の小学校での授業計画の立案と準備をグループごとに行う. (授業テーマ:日本文化の紹介) 小学校の先生への質問を各自考えてくる.

9月16日(火)

テーマ 教育と自然・地 理

めあて

アメリカの小 学校教育のの実際を経験する. また,ユタのい 然・地理につい て体験学習を する. 1. 教育(Shelley Elementary School : シェリー小学校 訪問)

高学年(4年と5年)クラスで授業 低学年(2年生)クラスで授業

テーマ:日本の文化を子ども達に伝える

- ・日本はどこにあるか知っていますか? (世界地図の中のどれが日本だと思いますか?)
- ・折り紙を折ろう ・日本の文字と習字体験
- ・日本の歌を一緒に歌おう

子ども達と一緒に学内のカフェテリアで昼食 小学校の校長先生と懇談

2. ユタの地理と自然

American Folk Canyon & Timpanogos Cave

今日のレッスンの達成目標

- 1. 子ども達への授業(日本と日本文化の紹介)を通して,日米の教育の共通点と相違点を実体験する.
- 2. 校長先生への質疑応答で、日米の教育および教員の教育観の共通点と相違点を検討する.
- 3. American Folk Canyon での渓谷トレッキングと, Timpanogos

Cave での現地レンジャーのガイドによる洞窟探検. ユタの自 然への理解を深める.





【開拓時代のフォークダンスを習う】 Historic Village にて

【日本の文化を子ども達に伝える】 Shelly 小学校にて

9月17日(水)

1. Speaking Practice

テーマ

2. Entertainment(アメリカの大衆娯楽)

エンターテイ メント(1)

3. ELIの他のクラスに参加

4. ユタ大の学園祭 (RedFest: 9/17, 18) を各自で見て回る. (明日9/18は日本文化ブースを出展して、学園祭に参加する)

めあて

今日のレッスンの達成目標

自分の会話力 の欠点を客観 的に把握する. また,アメリカ の一般的な娯 楽について基 礎的な知識を 得る.

- 1. 自己紹介のフレーズの録音を聞いて、自分の speaking が
 - 1) Native Speaker に分かると思うか
 - 2)Basic Grammar は OK か?
 - 3)Vocabulary はOKか?
 - 4) Pronunciation は OK か? を客観的にチェックする.
- 2. アメリカの一般的な娯楽、特に映画について、多様な好みや意 見,多くの制限(年齢,父兄同伴など)やルールがあることを学 ぶ、又、趣味や娯楽について会話する際の、基本的なフレーズ を習得する(趣味や娯楽の話は初対面の人との会話でよく話題 になる).
- 3. ELI の一般クラスで、自分の関心のあるところにゲスト参加す る.(他の先生の聞き取り&会話クラスと, Randall 先生の応用 文法クラスを受講した学生が多かった)

宿題: Writing Center に Transportation(公共交通機関を利用しての移 動)の経験を書き込む.

9月18日(木)

1. Memory Book (メモリーブック: 本プログラムの総まとめとなる記録, 参考資料 2003) の作り方(概説)

テーマ

エンターテイメ

ント(2)

- 2. VTR を見て、登場人物たちの映画や音楽の好みを聞き取る。来週のキ ャンプについての話し合い
- 3. ユタ大の学園祭(RedFest)で日本文化ブースを出展

めあて

アメリカの一般 的な娯楽につい て基礎的な知識 と、好き嫌いの

(数名ずつ交代で、ユタ大に長期留学中の信州大学教育学部の上級生達が応援に来てくれた)

*担当でない時間は、ELIの他クラスのまたはユタ大の授業を聴講. (担当講師、担当教授に予め許可を申請すれば、聴講はかなりフレキシブルに対応して貰えた)

4. モルモン・タバナクル聖歌隊コンサートの鑑賞(SLC)

表現の習得. 音楽鑑賞.

今日のレッスンの達成目標

音楽などの娯楽に対する好みの様々な言語表現(非常に好き、好き、まあまあ、嫌い、等)やbody language が理解でき、表現できるようになる.

9月19日(金)

1. Mystery activity

テーマ

2. Memory Book の作り方(詳細説明)

異文化交流

3. 来週のキャンプのプランニング

Online learning

4. ELI activity 国際交流: 留学生同士の交流会

今日のレッスンの達成目標

めあて

異文化との出あいと異文化交流について理解し、実践する.

- 1. Mystery activity: 異文化との出会いをドラマ形式で体験し、異文化理解と交流について学ぶ。
- 2. ELI で学ぶ各国の留学生達と Red Butte Garden に行き, クイズやゲーム, ピクニックを楽しみながら国際交流を実践する.

宿題:

- 1. 来週のキャンプ地(南ユタ: Arches National Park)のウエブ・サイトを見て、各自、事前学習をしておく.
- 2. Memory Book の自分のページのアウトラインをまとめてくる.

9月20日(十)

9月21日(日) (ELI のレッスン 宿題: (9/19:金 出題)

1. 来週のキャンプ地(南ユタ: Arches National Park)のウェブ・サイトを見て、各自、事前学習をしておく.

は、なし)

2. Memory Book のアウトラインを各自でまとめてくる.

第3週(9月22日~26日)

9月22日(月)

- 1. Memory Book の草稿作成.
- 2. ユタの地理と国立公園のルール(自然保護と安全管理)

テーマ

野外教育・自然 (プランニング)

3. キャンプ旅行のプランニング

(学生の Activity は午前中まで、午後は宿題に取り組む。)

教育・環境教育 4. (引率教員:渡部のみ)ELI デイレクターの Valentina 先生のオフィス訪 問. ユタ大学と ELI の授業・教員評価システムについての情報交換お よび今回のプログラムについて意見交換を行った.

めあて

明目からのキャー ンプ旅行の訪問 地: Delicate Arch Dead Horse Point の地勢の学習を 通して、ユタの 地理について学 \$.

今日のレッスンの達成目標

- 1. 木曜日(9月25日)に Memory Book を完成できてウェブ・サイトにア ップできるよう、テキスト部分を作成する.
- の生成過程や | 2. 明日からのキャンプ旅行の訪問地: Delicate Archや Dead Horse Point の風景が、長い時間をかけて形成されたことを理解する. そして、こ の自然を守ること(自然保護)の大切さと、訪問者の安全管理のために 決められている国立公園のルールを理解し、それを遵守することの重 要性を理解する.

国立公園の意義

とそこでのルー ルを理解する.

宿題:

- 1. Memory Book のテキスト部分を Randall 先生に添削して貰うため、今 日の夕方4:00 までに Randall 先生に原稿をメールで送信する.
- 2. 明日からのキャンプに必要な物を各自準備しておく.





【灼熱の砂漠をトレッキング】 南ユタ・キャンプ旅行にて

【日本文化ブース出展】 ユタ大学の学園祭にて

9月23日(火) 9月24日(水)

9/23: Dead Horse Point

- 1) Visitor Center で情報収集
- 2) キャンプとテントの設営
- 3) ハイキング

4) 星の観察、ゲーム、語らい 野外教育·自然 9/24: Arch National Park 教育・環境教育 1) Visitor Center で情報収集 2) Delicate Arch(トレッキング) 3) American Native Indian の古代画を見る 南ユタへの 4) Sand Dune Arch と Window Section でロック・クライミング キャンプ旅行 (装備なしで登れて、かつ登ることが許されているエリア) (1 泊 2 日) めあて 今日のレッスンの達成目標 自然と地形の形 1. ユタの自然と地形が、何百年もの年月をかけて形成されたことを理解 成にかかる年月 する. を理解し、環境 2. この環境を大切にして守っていくにはどうすべきかを学ぶ. 保護の意義と方

法を学ぶ.

9月25日(木)	1. Memory Book (午前)
	1) テキスト部分の完成と編集(月曜日に提出した原稿を Randall 先
テーマ	生が添削して返却してくれる. それをさらに校正・加筆する)
Memory book Ø	2) 写真のトリミングと文章中への挿入
作成	3) Randall 先生に原稿のコピーをメールで送信(添削して貰う)
	2. 午後、宿題または各自のやりのこしたことをやる.
めあて	
Memory Book ∅	今日のレッスンの達成目標
明日の完成を目	このプログラムの総まとめであり思い出の集大成となる Memory Book の
指して作成作業	明日の完成を目指して、作成を進める.
を進める.	
	宿題:1. 表紙をデザインする
	2. 写真のページを各自作成する.

2 /1 70 H (NY)	Hit : Memory Dook => /Linx
	1. 各自の原稿(テキストと写真ページ)の完成
テーマ	2. Memory Book の印刷と製本
Memory Book	
の完成	昼: Panorama North レストランにて Closing Ceremony
	全員がコースの修了証書をデイレクターの Valentina 先生から戴
Closing	き、Memory Book と3週間のプログラム中に撮った写真で綴ら
Ceremony	れたメッセージ CD を Randall 先生から戴いた.

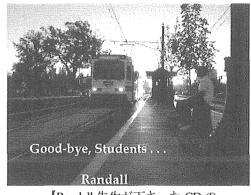
9月26日(全) 午前中・Memory Book の完成

3. 謝辞 (参考資料 2004:渡部(著者)執筆部分)

「単なる語学研修ではなく、コミュニケーションにとって一番大切なこと、つまり、お互いの人格、お互いの国の自然や文化や歴史を尊重し理解すること、経験や感動を、仲間と共有すること、仲間に伝えること、を学ぶ」というのが、このプログラムの基本のコンセプトであり、担当講師(実践者)の Randall 先生の願いでした。そして、見事にそれが実現された素晴らしい3週間を過ごすことができました。また、ユタ大の学生達、ソルトレイクシティの人々、小学校で出会った子ども達、ドミトリー(宿舎)で知り合った各国からの留学生達との交流を通して、かけがえのない友情と想い出を作ることができました。

このプログラムの実施と渡部の派遣にあたり、信州大学教育学部国際交流委員会の関係教職員の方々のご尽力と支援、学長裁量経費からの補助を頂きました。現地では、ELI デイレクターの Valentina 先生、アシスタントデイレクターの George 先生、プログラムコーディネーターの Krairut さん、そして何より Randall 先生とご家族の皆様に本当にお世話になりました。さらにユタ大学に長期留学中の信州大学教育学部の上級生達のプログラム参加学生への気遣いに感謝します。このプログラムで出会った素敵な仲間達に、またいつかどこかで再会できることを願っています。ただ、ユタで親切にしてくれた上級生の一人の岩崎弥寿雄君にだけはもうお会いできないことが残念でなりません。マーシャルアーツの授業や自転車旅行を楽しみながら充実した留学生活を送っていると話してくれた笑顔が素敵でした。ご冥福をお祈り申し上げます。





【Randall 先生が下さった CD の ラスト・メッセージ】

【コースの修了証書】

参考資料

David S.R., Hashimoto K., Takeuchu F., Wakeno C., Tamanoi Y., Maki H., Kondo K., Tanabe Y., Ota Y., Watanabe K, 2003, Challenge 2003 (*Memory Book*), English Language Institute, University of Utah, Salt Lake City, 36p.

信州大学教育学部国際交流委員会, 2004, 2003 年度ユタ大学夏期英語研修プログラム参加記 Discovery メモリーズ・オブ・ユタ September 7-28, 2003, 信州大学, 22 p.

(2007年4月30日 受付)